

旧街道ウォーク353★古代東海道[37][古代東海道 2008-09 その 16]「阿見～土浦」活動報告

【日 時】2009年12月13日(日) 11:10～17:00 曇り

【コース】土浦駅…(バス)…阿見中央公民館 → 上郷 → 右舂町〈昼食〉 → 中村西根 → 広岡(鹿島神社)
→ 上高津貝塚 → 粕毛 → 田中 → 真鍋(土浦一高) …(バス)…土浦駅(歩行12km)

【参加者】○梶川義実、大竹 亮、△片桐拓朗、河原佳明、佐藤晶子、高梨健一、恒川磯雄、寺村 映、
長谷川万里子、古里 実、矢部公大(以上11名) (○主催者、△途中参加)

【概況説明】

師走にしてはやや暖かい曇りの日でした。前回終着地の阿見中央公民館から台地上を歩き始め、畑の中の航空灯台を眺めながらほぼ一直線に北西へ進みました。阿見一区南に残る牛久助郷一揆道標を見た後、土浦市と阿見町の境の直線道を進み、右舂町三区にて昼食休憩。摩利山新田を通過し、旧水戸街道と交差したのちに、大きな農家が続く中村西根地区へ。その後、北東へ折れて花室川を渡り、鹿島神社に詣でたあと上高津貝塚(古代曾祢駅推定地)へ。その後、桜川沿いの低地に下り、穴塚・粕毛地区から桜川を渡って田中地区へ(一部路線バス利用)。再び台地によって夕暮れの真鍋地区を北へ進み、土浦一高西側の旧筑波街道との交差点で終了となりました。

【評価結果】

古代官道らしさについては、市境の直線状道路が続くなど古代官道の特徴が出ていたので、やや高い評価となりました。沿道風景については、沿道の農家や生け垣、農村風景などが魅力的で、やや高い評価となりました。古道の史跡については、上高津貝塚以外の古代史跡がほとんど存在しなかったため、やや低い評価にとどまりました。案内表示については、古道に関するものがなく、低い評価となりました。まちづくりの方向としては、道標の案内や古道群の散策コースが挙げられました。印象に残ったものとして、町境の直線道路、西根の農村集落、鹿島神社の参道、布施街道の道標、上高津貝塚などが多く挙げられました。全体を通じての評価はAとCに大きく分かれていましたが、平均点は3.25とやや高めの結果になりました。

【参加者の評価結果】

1◆全体を歩いた感想 評価点：3.25 内訳：AAAABCCC

A：広大な関東平野の農村地帯をゆったりと横切っていく風情が実感できた。桜川の低地を除くと平坦な台地の道を淡々と進んでおり、往時はさぞ茫漠とした寂しい土地だったろうと想像がふくらむ。

A：阿見と土浦の市境の直線路や上高津貝塚の先の道路など、快適な歩きが出来た。

A：街あり、畑あり、遺跡ありの変化に富んだコースであった。

A：色々な植物を学びました。遠くに牛久大仏の上半身がよく見えました。自衛隊がある影響が変わった形の施設など歩いていて飽きませんでした。

B：今回も直線性が古代東海道の雰囲気を持っていました。

C：古代道という点ではよく分からない。牛久一揆の史跡があり、勉強になった。義民サミットという催しがあることを知って驚いた。

C：上郷住宅と土浦の田中町の様に、かつての湿地や田圃が区画整理されている近代に作られた道も歩いたのです



▲推定古代東海道／つくば市広岡付近の集落



▲土浦市上高津古墳群(古代曾祢駅推定地)

が、そういう中に旧道が残っていればもっと面白いと思うのですが。

C：前半は真っ直ぐな道で古代官道らしさはあったものの、全体に見どころは少なかったように思う。後半暗い中を歩くのはきつい。

2◆特に魅力的だったところ

○航空灯台：灯台には見えない妖面な建物でした。

○義民顕彰の碑：牛久助郷一揆の供養塔兼道標のかたわらに立派な碑が建てられている。義民の義たるゆえんを後世に伝えていく大切な存在。全国義民サミットの試みも重要。

○阿見の直線道路：平坦な関東平野に見渡す限りの直線道路が続き、古代道らしさを十分に味わうことができた。

○右舂町とうずら野の境界の真っ直ぐな道：どこまでも続く直線道路。市境であるのは重要なポイントか...

○日先神社への道標。古代からの要衝の道路という感じがしてきます。

○常総学院下の「道普請供養塔」の道標：古来からの重要な道路だったことを感じさせる。

○中村西根の集落：土蔵や長屋門、見事な生け垣など立派な農家が並ぶすばらしい集落。

○中村西根の農家：どの家も生け垣が立派であった。

○中村西根の屋敷林、花室川を渡って上がっていくあたり

○花室川手前の道標：道普請の記念碑であったが、とても立派だった。さらに、江戸後期に作り替えていることもすばらしい。

○花室川手前の道標：「左やたべ、ふせ道」とあり（布施街道）、私が主張する古代東海道別ルートが存在が示されたことに感激した。

○鹿島神社：小さいながら落ち着いた神社。道と平行に参道があるのが珍しい。

○鹿島神社：参道が綺麗だった。河原さんの野点がさらに良かった。

○上高津貝塚：貝塚には見えなかったですが、竪穴式住居に入ってみたら意外と広かったです。

○上高津貝塚：高津の台地端にあり、桜川の低地を挟んで対岸の真鍋の台地をのぞむすばらしい立地。広々した場所に、貝塚断面（当日は未見）や住居遺構も貴重なもの。

○上高津貝塚：ゆっくり散策したかった。

○上高津貝塚からの舗装されていない道：落葉の上を歩くのは久しぶりでした。

○上高津貝塚付近：冬枯れた林の中のすばらしい道。

○上高津貝塚裏の山道。

○穴塚地区：竜巻が発生した穴塚地区に行こうとはびっくり。

○筑波リンリンロード（自転車メインのきれいに舗装された道が昔線路だった処）

○真鍋の坂道：すっかり暗くなった後、狭く曲がりくねった道を上っている風情があった。上り切ると筑波街道旧道に出たのも、味わい深かった。

○土浦一高前から土浦駅までの路線バス：側面の行先表示に「北条→小田→藤沢→土浦一高前→土浦駅」とあり、来るべき筑波街道ウォークの道筋を予感させた。



▲推定古代東海道／土浦市上高津付近



▲筑波街道に沿って走る路線バス

3◆古代官道らしさ（直達性、短絡性、古代史跡等） 評価点：3.29 内訳：AABBBBC

A：直線区間が多く、また古代遺跡もあり、官道らしさを感じられた。

A：全体としては「く」の字だが、土浦市街の桜川沿いの低湿地を迂回し、台地から台地へと最短距離でつないでいる。前半の市境の長い直線道路や、後半の上高津貝塚の存在なども、古代道らしい。

B：平坦な地形に直線道路があること。

B：阿見町から常磐線を渡るまでは真っ直ぐな道で、直達性を感じました。

B：阿見町と土浦市の境界をゆく道はかなり直線的であった。

B：直線状の道路が非常に長く続き古代官道らしさを感じられました。

C：日先神社への道標があったあたりから直線道路がかなり長く続いていましたが、両側に結構住宅があり、やや古代の感じが薄かった。

4◆沿道風景の魅力 評価点：3.29 内訳：AAABBCC

A：平坦な関東平野の風景を十分に味わうことが出来た。後半は、農村集落のたたずまいや畑と平地林の景色にも趣きがあった。上高津貝塚付近の林の中の古道はすばらしい。

A：生け垣や樹木が美しい。また、筑波山がだんだん近づいてくる景色がよかった。

A：奥まで行ってみたくなる緑の生垣のある横道（鹿島神社の後あたりだったと思います）。景色は少し単調でした。

B：西根の屋敷林、花室川を渡って上がっていくあたり。

B：西根町の豪農の屋敷群には驚いた。

C：全体に見所は少なかったが、西根町付近の農家の防風のための生垣は良く手入れされていて美しい。

C：特になかったように思います。



▲推定古代東海道／阿見町上郷付近の直線道



▲推定古代東海道／土浦市中村西根の豪農

5◆古道にふさわしい史跡 評価点：2.43 内訳：AABCCCC

A：上高津の古墳群は、平坦な台地の先端にあり、古い時代の遺構が密度濃く残された貴重な史跡であった。古代曾祢駅である可能性も高そうである。時代は下るが、義民の碑からも往時の歴史が迫ってくるようだ。

A：沿道ではないが、助郷一揆の碑は良かった。古代官道には関係ないが、水戸街道等については道標があり、街道として使われていたことを示している。

B：途中に道標がいくつかあり、古来からの道路ということを感じさせる。牛久の助郷一揆の道標や記念碑もその近辺が交通の要衝だった名残ということで良い史跡だと思います。

C：江戸時代の話ではあるが、牛久助郷一揆道標に記されていた話は、この付近の街道が交通の要所で付近住民の負担が大きかったことを偲ばせ興味深かった。

C：行かなかったが日先神社はそれっぽいのではないか。あとはあまりなかったと思う。

C：上高津貝塚が曾爾駅推定地とのことであったが、雰囲気はよく出ていると思う。他には特に史跡はなかった。

C：史跡は少なかったです。

6◆沿道の古道や歴史の案内表示 評価点：1.75 内訳：BBBCCCCD

B：牛久一揆の案内があった。

B：牛久助郷一揆道標

B：史跡については適切に表示されていたが、古道に関するものは無かった。

C：上高津貝塚については表示があったが、古道についてはなかったので残念。

C：古道に関する案内はほとんどなかったように思う。

C：貝塚以外に案内はほとんどなかった。

C：史跡同様少なかったです。



▲牛久助郷一揆道標(左)と義民顕彰碑(右)



▲布施街道分岐点の道普請道標

7◆古道を活用したまちづくりの方向

○古い道標があり、それらしかあったが、読めないものが多いので、案内を付けて欲しい。

○土浦付近には、古代東海道、中世鎌倉街道、近世水戸道中が並行しており、直線状の古代道、尾根道の鎌倉道、集落をつなぐ街道など、その特性を比較しながら歩けそうである。上高津貝塚を中心に、古代道路散策コースができると面白い。

8◆その他、今回の企画や気づいた点など

○前半は、初めて見る航空灯台を左手に真っ直ぐな道をひたすら歩き、不思議な感じがした。牛久助郷一揆道標では、街道沿線の民衆の負担と苦しみを知ることができた。今回は距離も長く単調だったので、少し疲れました。

(M. F)

○この道筋を8年ぶりに歩くことができ、変わらない風景を前に感慨にふけりました。当時と同じように、田中の酒屋があり、最後は再び夜の坂道を真鍋に上ったのも、デジャヴのようでした。それから、途中の道標で布施経由の古代東海道別ルートに、確証を持つことが出来ました。さらに、神社境内で本格的な野点をして下さった河原さんには感激です。また、暗くなっても、地元佐藤さんの的確な道案内で迷わずに済みました。次回はいよいよ常陸国府参上です。美しい石岡の町並みも楽しみです！(R. O)

○9年前にはもっと本数があった高速バスが、今は1日4本になってしまいましたが、それをうまく使って阿見町へ直行できました。右粕町の大通りから先は初めて歩く区間でしたが、常磐自動車道も近づき、いよいよ古代官道らしくなってきました。休憩時に抹茶を振る舞っていただき感心しました。次回はいよいよ古代官道・今回の終点・常陸国府です。(T. K)

○地元ならではの佐藤さんの説明がとても解りやすかったです。有難うございました。畑が続くと思ったらいきなり小洒落た民家が出てきたりで、歩いていて面白かったです。鹿島神社での野点は感動&嬉しかったです。河原さん、有難うございました。つくば市のマンホールは筑波山バックにロケットと惑星を施すデザイン、土浦市はやはり市の花「桜」メインバージョンと筑波山などの自然モチーフバージョン。今回は柘植の樹、カラスウリの種が「大黒様」に似ている(確かに！)と教わったり、エノキダケの元を教えてもらったり、柏の樹が庭にあつたり、初めてカリンや「むべ」の実を見たり、檸檬の樹を見たり、椎の実は銀杏に似ている等、多分他の参加者の方より植物の

発見や学習をした気がします。恒川さん、河原さん有難うございます。地図に記入したメモは殆どお二人に教わった植物のことでした。帰宅してウィキペディアで更に検索してみました。「どんぐり」…ブナ科のクヌギ、カシ、ナラ、カシワ、クリなどの果実の総称(但し、クリは通常分けてくりと呼ぶ)。「ヤツデ」…葉にはサポニンなど含み人体に多量摂取すると腹痛など起こすが、通常(植えてある状態の時)は殺虫効果があるらしい。丈夫なので庭木に相応しい。「むべ」…アケビ科ムベ属の常緑つる性低木植物(常盤あけびとも呼ばれる)。普通のあけびは熟すと割れるが、むべは果皮の内側に硬い層があり、割れない。「むべなるかな」という言葉に由来するらしい。(M. H)
○阿見の町営住宅?は古そうな感じがした。時間が遅くなり、暗くなったのはまずかった。(I. T)
○次第に終点に近づいており、次回是非最終まで歩きたい。(A. T)

◆主催者より

直線路と貝塚や古墳の存在により、古代官道を構成していたことが感じられた。考古資料館に行けなかったのは残念だった。9年前も歩いているが、やはり最後は暗くなってしまった。佐藤さんがいなければ、迷ったかもしれない。助かりました。次回はいよいよ常陸国府です。(梶川義実)



上高津貝塚（古代曾祢駅推定地）にて